

# V. 社会的取組み

## ① 組織統治

### ■ 内部統制システム

#### 概要

独立行政法人における内部統制とは「中期目標等に基づき法令等を順守しつつ業務を行い、独立行政法人のミッションを有効かつ効率的に果たすため、法人の長が法人の組織内に整備・運用する仕組み」と定義されており、法人は、法令等を順守しつつ業務の適正を確保するための体制を整備することが求められています。

JAMSTECでは、内部統制の強化について、業務運営の効率化を図りつつ、組織及び業務における、意思決定プロセス及び責任と裁量権の明確化、コンプライアンスの徹底等を図ることとしています。その際、リスクを把握し、その影響度等を勘案しつつ適切に対応を行う他、法令順守等、内部統制の実効性を高めるため、日頃より職員の意識醸成を行う等の取組みを継続しています。また、内部統制システムが適正に運用されているか、内部監査等により点検を行い、必要に応じ見直すとともに組織運営に反映しています。

2019年度の取組みとしては、意識醸成の一環として、外部講師による全役職員向け内部統制研修を実施したほか、役員及び外部有識者からなる内部統制委員会を開催しました。

### ■ リスクマネジメント

#### ①概要

リスクとは、組織目標の達成を阻害し、望ましくない結果をもたらす危険性や不確実性のことをいい、財務上や研究開発上のリスク、社会規範上のリスクなど、多様なものがあり、事業活動に伴う公害の発生や油の流出などに代表される環境汚染などの環境影響についてもこのリスクに含まれます。リスクマネジメントとは、これらのリスクを的確に把握し、低減化を図るための仕組みの事をいいます。JAMSTECでは「リスクマネジメント基本方針」「リスクマネジメント規程」のもと、組織が抱えるリスクの洗い出し及び評価、優先的に対応するリスクの選定及び対応計画の策定、優先対応リスクへの対応、進捗状況のモニタリングと評価、リスク対応の見直しというPDCAサイクルを回すことで、リスクの発生可能性の低減化、又はリスクが発生した場合の損失・被害の最小化を図っています。

### リスクマネジメント基本方針

独立行政法人海洋研究開発機構（以下「機構」という。）は、機構が抱える多様なリスクを的確に把握し、その発生の可能性を低減し、また発生した場合の損失の最小化、早期復旧及び再発防止に努めることにより、機構の事業目的の達成を容易にし、国民の皆様から信頼される組織を目指すこととする。

リスクとは、機構の事業目的の達成を阻害し、望ましくない結果をもたらす危険性や不確実性のことをいう。ここでいうリスクには、安全に係るリスク、研究開発に係るリスク、経営管理に係るリスク等の機構の事業活動に係る全てのリスクを含む。

機構のリスクマネジメント活動は、以下の事項の達成を目標とする。

1. 機構の各事業に相当程度の影響（損失）を与え得るすべてのリスクを発見・特定し、経営レベルで掌握する。
2. 統一的な指標に基づき、各々のリスクが経営に与えるインパクトを客観的に数量化し、対応の優先順位を明確化する。
3. 主要なリスクについて、平常時の対応を主管する組織を明確化する。
4. 主要なリスクについて、各リスクの対応策を整備する。
5. 緊急時の対応について、責任者および対応組織とその権限・責任が明確化され、機構内の指揮命令システムを確立する。
6. 定期的な教育・研修を通じ、全役職員がリスクマネジメントに係る諸規程の内容を熟知する。また、自らの役割を認識し、責任ある的確な行動をとる。

理事長は、機構の最高責任者として、機構のリスクマネジメントを総理する。

機構におけるリスクは、リスクマネジメント規程及び安全管理規程並びにこれらに関連する諸規程に基づき、的確に把握し、対応する。

## ②2019年度の取組み

2019年度に実施した取組みは以下のとおりです。

- 外部講師を招き、講演会形式による内部統制研修の実施（2019.10.15実施）
- グループワーク形式によるリスクマネジメント研修の実施（2019.10.17、10.25実施）
- 優先対応リスクへの対応として、リスクマネジメント委員会のもとにワーキンググループを設置し、機構全体の職場環境・組織風土の改革に着手
- 全役職員向けに不正防止に係るリスクマネジメントニュースを配信し、ビデオ教材を紹介

## ■ コンプライアンス（法令等の順守）

### ①コンプライアンスの体制

コンプライアンスとは、狭義で「法令順守」の意味で理解されることもありますが、明らかな法令違反とは言い切れない不適切な事案についても適切に対応する必要性があることから、JAMSTECでは法令に留まらず社会規範の順守までも含むものとして考えています。

JAMSTECでは、「コンプライアンス行動規準」と「コンプライアンス規程」に基づき、不正・不法行為の未然防止に取り組んでいます。また、研究活動における不正及び研究費の不正使用については、「研究活動行動規準」「研究活動における不正行為への対応に関する規程」「競争的資金等における研究資金の管理等に関する規程」を定めています。

## コンプライアンス行動規準

独立行政法人海洋研究開発機構（以下「機構」とします。）は、平和と福祉の理念に基づき、海洋に関する基盤的研究開発、海洋に関する学術研究に関する協力等の業務を総合的に行うことにより、海洋科学技術の水準の向上を図るとともに、学術研究の発展に資することを目的としています。

この行動規準は、私たちが上記目的を達成するために日々の業務を行っていく中で、法令等を遵守して行動するための基本的な姿勢を定めたものです。私たちが遵守する「法令等」には、法令だけでなく、機構が定める諸規程や私たちが社会の一員として守るべき社会規範や環境への配慮も含まれます。私たちは、国民の負託を受けて働く者として、私たちの業務が少しでも社会に役立つよう、高い倫理観と自己規律に基づいて法令等の遵守（「コンプライアンス」とします。）を実践することを宣言します。

### 1. 私たちは、毎日、誇りと公正な視点、誠実な心を忘れずに仕事に取り組みます。

私たちは、毎日の業務を行うにあたって、法令、諸規程及び社会規範に則り、誇りと公正さ及び向上心をもって誠実に行動することを誓います。

### 2. 私たちは、公私のけじめは厳として行います。

私たちは、高い倫理観と自己規律に基づいて公私のけじめをつけて行動します。

### 3. 私たちは、情報を適切に取り扱います。

私たちは、法令に則り、情報公開と個人情報保護を適切に行います。

### 4. 私たちは、人権を尊重し、風通しの良い職場環境を作ります。

私たちは、性的差別や嫌がらせなど人権を脅かすような行為に対しては厳しく対処します。同じ職場で働く者の多様な個性を尊重することで、安全かつ安心して能力を発揮できるよう風通しの良い職場環境を作ります。

### 5. 私たちは、地域・社会へ貢献いたします。

私たちが行う海洋に関わる研究開発には、地球温暖化の予測や海溝型巨大地震メカニズムの解明など社会の営みに直接関わりのあるものがあります。私たちは、観測や実験を通じて得られた研究成果を分かりやすく地域・社会に伝えることで、自然災害の防止や社会的不安の緩和に役立つことを強く願うものです。

### 6. 私たちは、環境に配慮して行動します。

私たちは、社会の一員として、社会全体に係わる環境問題に関心を持ち、環境に対する負荷を少しでも軽くすることに努力し、協力いたします。

### 7. 私たちは、法令及び諸規程の違反に対しては厳正に対処します。

私たちは、法令及び諸規程の違反を知ったときは、直ちに規程に従った通報を行うとともに、これを是正し、再発防止策を定めます。いかなる理由があろうとも、法令及び諸規程の違反の事実を繕ったり、隠したりしません。法令及び諸規程の違反や事実の隠蔽等に対しては、就業規程等の定めに従い懲戒処分の対象とするなど厳正に対処します。

### 8. 役員は、この行動規準に従って率先垂範いたします。

役員は、業務の遂行にあたり、この行動規準に従って自ら率先垂範して臨むことを宣言します。

## ②法令順守の状況

JAMSTECの事業活動において関係する環境関連法令の順守状況は次の通りです。2019年度においては法令に違反した事実はなく、処分は受けていません。

適用を受ける主な環境関係法令	主な規制の内容	順守状況
エネルギーの使用の合理化に関する法律（省エネ法）	電力などのエネルギーの合理的使用、省エネ	○
国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）	環境負荷の少ない物品の調達	○
国等における温室効果ガス等の排出の削減に配慮した契約の推進に関する法律（環境配慮契約法）	環境負荷が少なくなるように工夫した契約	○
環境情報の提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律（環境配慮促進法）	事業活動に係る環境配慮等の状況に関する情報の提供	○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法）	産業廃棄物などの適切な処理	○
大気汚染防止法	大気に放出するばい煙等の管理	○
水質汚濁防止法	公共用水域（海域、河川など）へ排出する排水の管理	○
下水道法	下水道に排出する排水の管理	○
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（PRTR法）	対象となる化学物質の排出量の把握	○
海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律（海洋汚染防止法）	船舶などから海洋への油や廃棄物排出の規制	○
放射性同位元素等の規制に関する法律（放射性同位元素等規制法）	放射線障害の防止と放射性同位元素等の適切な管理	○
核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律（原子炉等規制法）	核原料物質、核燃料物質、原子炉の平和利用の確保と、適切な管理及び規制	○
遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律（カルタヘナ法）	遺伝子組換え実験の適正な実施	○

○：良好 △：指導あり ×：違反あり

## ■ 情報の管理とセキュリティ

近年、高度情報通信技術の発展により、個人情報利用が著しく拡大し、コンピューターやネットワークを利用して大量の個人情報が処理されています。JAMSTECでは「個人情報及び個人番号保護管理規程」等を定めて、個人の権利利益の保護を行っています。

なお、2019年度の個人情報保護教育研修は集合研修という形を取らず、資料配布を行い、後日理解度確認テストを実施することで、職員の理解増進、意識向上に注力しました。

さらに、「独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律」に基づき、組織の適切な運営を確保し、かつその活動を広く知らしめることで、国民の信頼を確保する観点

から、業務・人員の合理化・効率化に関する情報等の情報公開を行っています。

また情報セキュリティの観点から、機構全職員への啓発活動の継続に加え、年々増大するリスクに対応して、訓練の実施やeラーニングシステムの利用によりリスク軽減を図るなどの取組みを行っています。また、情報セキュリティの機密性、完全性、可用性を考慮し、メールシステムをクラウドメールサービスに移行し、外部へのメール自動転送を廃止し、情報セキュリティリスクを低減するとともに、事業継続性を強化しました。さらに、内閣が作成した「政府機関の情報セキュリティ対策のための統一基準」を踏まえ、JAMSTECでは2017年1月に情報セキュリティポリシー基本方針を策定しました。

## ■ 知的財産権の管理

知的財産権とは、発明や創作によって生み出されたものを、発明者の財産として一定の期間保護する権利です。

JAMSTECが我が国のみならず国際的に海洋科学技術の中核的機関として機能していくためには、海洋に関する「知」を不断に創出し、それらを社会経済の発展のために活用されるよう発信していくことが不可欠です。JAMSTECは優れた人材と世界最高水準の技術を併せ持つ世界有数の研究開発能力を有しており、先進的な研究開発成果を知的財産の形で広く公表していくとともに、産業界や他の機関が利用しやすいように、組織を挙げた取組みを進めていくこととしています。

JAMSTECでは「知的財産に関する基本的な考え方（知財ポリシー）」を制定し、

- 知的創造サイクルの活用
- 知的財産管理をビルトインした研究開発活動の推進

- 知的財産権の帰属・承継
  - 研究成果の社会への還元による社会貢献
  - 企業等との連携における透明性の確保
- を基本的な考え方として「職務発明等活用規程」を定め、知的財産の創造、保護、管理、活用に積極的に取り組んでいます。

なお、2020年3月末の時点での知的財産の保有数は右の表のとおりです。

### 知的財産の保有数

	国内	海外
特許	129	85
意匠	2	2
商標	26	0
プログラム著作権登録 <sup>*1</sup>	16	-
ノウハウ <sup>*2</sup>	8	0

※1 SOFTIC（ソフトウェア情報センター）への登録数

※2 企業等に実施許諾等する場合に認定

## ② 労働慣行

### ■ ダイバーシティへの取組み

JAMSTECでは労働者と働き方の多様性を重視したダイバーシティの推進を図っています。組織として全ての職員がその能力を発揮して働くことのできる環境づくりを意識し、支援制度や体制を整備しています。

また育児に関しては、妊娠中、育児中の女性職員のみならず、配偶者が出産予定、育児中の男性職員や、これらの職員を持つ職場の上司、同僚も含め、仕事と育児の両立の実現に向けて、出産・育児支援制度の普及・利用促進を図っています。

今後もJAMSTECでは、職場におけるワーク・ライフ・バランスに関する意識向上及び理解増進のための情報発信や、テレワーク（在宅勤務）制度の本格導入、年次有給休暇の取得促進など、労働環境の変化に応じた職員の多様な働き方を支援する取組みを行ってまいります。

### ■ 保健衛生

横須賀本部及び横浜研究所では健康管理室を設け、怪我や病気が生じた際は、常駐の産業保健スタッフが対応に当たっています。

また週に1度、産業医による健康相談も行っています。その他にも、法令の定めによる定期健康診断及び特殊健康診断を実施し、職員の健康維持、増進及び管理を行っています。

また心の健康は、本人とその家族の幸福な生活のために、また活気ある職場づくりのために必要不可欠なものです。JAMSTECでは、2016年度に制定した「心の健康づくりのための基本方針」に基づき、セルフケア、ラインによるケア、JAMSTEC内スタッフによるケア、外部機関によるケアの4つのケアを中心に、職場のメンタルヘルスマネジメントに取り組んでいます。

また毎事業年度に1回ストレスチェックを実施し、ストレスチェックの結果、高ストレス者と判定された場合は、医師による面接指導のほか、必要に応じて就業上の措置を実施しています。

## ■ ハラスメントの対応



ハラスメント防止のためのハンドブック序文

セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）に代表される職場における様々なハラスメントは、職員の人としての尊厳を不当に傷つける社会的に許されない行為であるとともに、職員の能力発揮を妨げ、職場秩序を乱し適切な業務遂行の障害となることに繋がります。

また、ハラスメントは職場環境を悪化させるだけでなく、職員の心身の健康を害し

長期療養を要する場合もあり、組織に対する影響は看過できないものです。

職員等の適正な就業環境の確保、利益の保護及び職務遂行能力の発揮を図るため、ハラスメントの防止及び排除に努めるとともに、ハラスメントが発生した場合は、必要な措置を迅速かつ適切に講じることとしています。

JAMSTECでは様々なハラスメントを防止し排除するため、「ハラスメントの防止等に関する規程」を制定しています。また、相談窓口を設けて随時相談を受け付けているほか、「ハラスメント防止のためのハンドブック」を作成して職員に配布し、ハラスメントを未然に防止し、快適に働くことができる職場づくりのため、また良好な人間関係を築くため、ハラスメントの防止と啓発に取り組んでいます。

## 🎩 JAMSTEC オリジナルグッズのご紹介～帽子～ 🎩



### 帽子 JAMSTECロゴ ネイビー

実際にJAMSTECの船員が被っている刺繍ロゴ入りキャップ。これをかぶれば気分は海の上！

販売価格：2,035円（税込）



### 帽子（キッズ）しんかい6500

アクア（左）                      ホワイト×ブラック（右上）  
 ホワイト×ブルー（左下）      ロイヤルブルー（右下）  
 JAMSTECロゴとしんかい6500をモチーフにしたキッズ用キャップ。サイズ調整できるので長く使える！

販売価格：各866円（税込）



その他にも文房具やキーホルダーなど、いろいろな商品を取り揃えておりますので、ぜひ、JAMSTECオフィシャルオンラインショップにお越しください。

<https://www.jamstecshop.com/>

☆価格改定、在庫切れ等の場合はご容赦ください。

## ③ 社会貢献

### ■ 社会貢献の方針

JAMSTECは、海洋・地球環境分野における調査・研究開発を実施し科学技術の進展に貢献していますが、こうした活動の他に社会への直接的な貢献についても、本来業務の一環として積極的に取り組んでいきます。

JAMSTECは、社会への貢献として、子供たちをはじめ一般の方々との交流を通じ、海洋や地球についての知識の普及と理解の増進、教育界との連携による人材の育成、さらに産業界との積極的な交流を通じた研究開発成果の産

業利用などに取り組みます。

JAMSTECは、こうした社会貢献への取組みのため、毎年度の総事業費の一定割合（当面1%を考えています）を振り向けるとともに、自らの業務がどのようにしたら社会とつながっていくことができるかを念頭に置いて、職員がそれぞれの業務に従事できるような環境を作っています。

JAMSTECが社会貢献に取り組むに当たっての基本方針は、以下のとおりです。

#### 1. 通常業務におけるアウトリーチ活動の重視

JAMSTECでは、中期計画の推進のため、より具体的なアクションプランを作成し、その中で各研究プログラムの推進や機構の管理運営に関し、社会へのアウトリーチに向けた目標を示しています。

その実現に向けて、役職員が邁進することが、まず重要であると考えます。

#### 2. 社会貢献型事業の実施

次の3つの視点から社会貢献への取り組みを強化します。

##### (1) 科学技術理解増進活動の充実

対話型重視のアウトリーチ活動（普及・啓発活動）を実施します。

海洋・地球科学技術の知識を体系的に提供できるよう努力します。

学校、水族館・科学館、地域等とのネットワークやボランティアの参加を得て、多様な年齢層・社会層における海洋・地球に関する科学技術への関心・知る意欲を高めるための活動を進めます。

##### (2) 人材の育成への寄与

将来この分野に進みたいと思う小・中・高校生が増えるよう、海洋・地球科学技術に接する機会を提供し、夢や期待を育むよう努めます。

大学、産業界、自治体等との連携の下、若い世代の「伸びうる能力」を最大限引き出し、高い専門性を有する研究開発プロフェッショナルを育てます。

##### (3) 成果の活用

研究成果の中で、追加的努力によってすぐに社会に役立つようなものは、社会貢献型事業として重点的に進めます。

成果が広く社会で活用されるよう、知的財産化します。

海溝型地震の即時検知・通報システム等、社会に直接役立つ新技術の開発を進めます。

#### ■ 社会的取組み（社会貢献活動／持続可能社会への貢献）事例 ■

海洋プラスチック汚染は地球規模の環境問題であり、生態系や人類の健康への影響や社会／経済的インパクトが懸念されています。

JAMSTECでは、科学的知見を深めるためのデータ収集を行い、まだ見ぬ場所にある海洋プラスチックを見つけること、今、求められていることを踏まえて、日々活動を行っています。

海洋プラスチックに関するJAMSTECの取組みの詳細は54ページをご覧ください。

## ④ 国際協力・外部機関との連携

### ■ 国際連携とプロジェクトの推進

JAMSTECは、我が国のみならず、国際的な海洋科学技術の中核的機関としてJAMSTEC及び我が国の国際的プレゼンスの向上を図りつつ、地球規模課題の解決に貢献するため、海洋に関する国際協力を推進しています。

#### ① 国連機関・国際条約への対応、及び海外研究機関との連携等

- 政府間海洋学委員会（IOC）、国際科学会議（ICSU）、全球地球観測システム（GEOSS）等への貢献
- 国連海洋法条約（UNCLOS）、気候変動枠組条約（UNFCCC）、生物多様性条約（CBD）等への適切な対応
- 海外研究機関との研究開発協力及び交流の促進
- 機構の国際化促進

#### ② 国際深海科学掘削計画（IODP）の推進

- 国際深海科学掘削計画（IODP）を推進する地球深部探査船「ちきゅう」の運用
- 「ちきゅう」乗船研究者に対する科学的、技術的支援
- 掘削コア試料の保管・管理・提供及び取得したデータの円滑な提供
- 日本地球掘削科学コンソーシアム（J-DESC）を通じた研究者間コミュニケーションの促進

#### ③ 地球規模課題への対応

- 気候変動、物質循環、生物多様性等の地球規模課題への貢献

### ■ 機関連携及び共同研究による研究協力

JAMSTECでは、研究開発によるイノベーションの創出、社会への成果還元を図るため、国内外の大学、企業、研究機関等と機関連携及び共同研究等の協力関係を構築しています。2019年度については、包括連携協定としては国内27件（前年度27件）、海外24件（前年度27件）、共同研究契約としては国内96件（前年度109件）、海外43件（前年度46件）に基づき、協働を進めました。

また、JAMSTECにおける研究開発成果や知的財産を戦略的に活用していくことで、成果の社会還元を着実に推進しています。併せて、国民の海洋科学技術に関する理解増進や異業種との人材交流の推進、将来の海洋科学技術の更なる発展を担う若手人材の育成にも貢献し、知・資金・人材の循環を活性化させることにより、社会とともに新しい価値を創造していきます。このような諸活動を通して、特許等のライセンス、ベンチャー起業、各種コンテンツ化

による提供等、個々の活用対象の特性を踏まえ、時宜を得た方法で成果として結実させ、我が国の関連分野の研究開発力の強化へと繋げていきます。

#### 国内機関との共同研究契約件数及び契約相手方機関の推移

名称	2017年度	2018年度	2019年度
共同研究契約（新規課題）	104(21)	109(23)	96(32)
契約相手方機関	138	142	129

注：（ ）内は新規課題数

#### 国際連携とプロジェクト推進に係る2019年度の主な実績

- IOC協力推進委員会及び国内専門部会（海洋観測・気候変動国内専門部会を2回）を開催し、各専門分野の専門家による意見交換を実施しました。
- 第30回IOC総会に機構職員が日本政府代表団の一員として出席し、専門的な知見に基づき発言を行い、また他国政府代表団との調整及び情報収集を行い、IOCの意思決定に貢献しました。
- 第12回IOC西太平洋地域小委員会（WESTPAC）総会が開催され、機構職員が日本政府代表団の一員として出席し、WESTPACの意思決定に貢献しました。
- 世界海洋科学白書の編集委員会に参加し、第2版の作成に貢献しました。
- 令和元年8月5日から7日までにかけて、機構がホスト機関となり、第9回GOOS Regional Alliances Forumを開催しました。
- 第3回BBNJ政府間会合に役員が代表団の一員として出席し、専門的知見より我が国の対応に貢献しました。
- 第16回地球観測に関する政府間会合（GEO）本会合に出席し、情報収集した他、文部科学省及び我が国の地球観測機関とともに、「Japan GEO」ブースへ出展、参加しました。
- 南太平洋における深海観測の日仏協力プロジェクト立ち上げに向けた科学ワークショップを、機構と仏国立海洋開発研究所（Ifremer）が中心となり、9月にニューカレドニアで開催しました。

## 5 表彰・顕彰

部署名・役職などは当時のものを記載しています。

JAMSTECに所属する職員が次のとおり外部から表彰されました。なお、本報告書では2019年度発表分を掲載しておりますのでご覧ください。詳細につきましては、ホームページで掲載して

褒賞の名称	受賞者（受賞時の役職・所属を記載）
2019年度日本気象学会堀内賞	金谷有剛 センター長代理・上席研究員 (地球環境部門 地球表層システム研究センター)
2019年度日本雪氷学会学術賞	斉藤和之 主任研究員 (地球環境部門 環境変動予測研究センター)
2019年度日本エアロゾル学会奨励賞	宮川拓真 研究員 (地球環境部門 地球表層システム研究センター 物質循環・人間圏研究グループ)
2019年度日本有機地球化学会 有機地球化学会奨励賞 (田口賞)	伊左治雄太 研究員 (海洋機能利用部門 生物地球化学センター)
日本化学会Okinawa Colloids 2019 Best Poster Award	佐川直也 ポストドクトラル研究員 (海洋機能利用部門 生命理工学センター 新機能開拓研究グループ)
日本微生物生態学会 第33回大会 ポスター賞 (博士号取得者の部)	澄田智美 特任技術主任 (海洋機能利用部門 生命理工学センター 深海バイオリソース研究グループ)
日本分析化学会先端分析技術賞JAIMA機器開発賞	鈴木勝彦 センター長 (海洋機能利用部門 海底資源センター)
物理探査学会物理探査学会賞 論文賞	笠谷貴史 グループリーダー 後藤忠徳 招聘上席研究員 (海洋機能利用部門 海底資源センター 物理特性グループ)
Goldschmidt 2019 Geochemical Journal Award	吉田健太 研究員 (海域地震火山部門 火山・地球内部研究センター)
JpGU Meeting 2019 学生優秀発表賞	田中えりか 研究生 (海域地震火山部門 火山・地球内部研究センター)
可視化情報学会第30期学会賞 (奨励賞)	桑野 修 研究員 (付加価値情報創生部門 数理科学・先端技術研究開発センター)
2019年度日本海洋学会宇田賞	山形俊男 特任上席研究員 (付加価値情報創生部門アプリケーションラボ)
2019年度日本海洋学会岡田賞	森岡優志 研究員 (付加価値情報創生部門アプリケーションラボ)
2019年度 日本シミュレーション学会 論文賞	西川憲明 特任技術研究員 廣川雄一 特任技術研究員 (付加価値情報創生部門 地球情報基盤センター)
The Micropalaeontological Society Foram- Nanno 2019ベストポスター賞	Laurie M. Charrieau JSPS 外来研究員 (超先鋭研究開発部門 超先鋭研究プログラム)
公益財団法人海洋化学研究所第3回海洋化学奨励賞	川口慎介 研究員 (超先鋭研究開発部門 超先鋭研究プログラム)
第5回日本微生物生態学会奨励賞	鈴木志野 研究員 (超先鋭研究開発部門 高知コア研究所 地球微生物学研究グループ)
2019年度日本地球化学会第66回年会 日本地球化学会奨励賞	窪田 薫 JSPS外来研究員 (超先鋭研究開発部門 高知コア研究所 同位体地球化学研究グループ)
日本文化財科学会第36回大会ポスター賞	若木重行 技術研究員 (超先鋭研究開発部門 高知コア研究所 同位体地球化学研究グループ)
2019年度海洋理工学会業績賞	「Team KUROSHIO」
欧州地球科学連合 (EGU: European Geophysical Union) において、欧州コペルニクス協会によるコ ペルニクスメダル2019を授与	稲垣史生 上席研究員 (マントル掘削プロモーション室)